

平成 28 年度光産業技術標準化会総会

平成 28 年度の光産業技術標準化会の総会を平成 28 年 7 月 28 日（木）、東京丸の内の銀行俱楽部にて、57 名の参加者の下、開催した。

当協会専務理事 小谷泰久の主催者挨拶の後、来賓の経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課の野口康成統括基準認証推進官より、「原子力安全と国際標準」と題した講演がなされた。野口推進官は、国際電気標準課への着任前には国際原子力機関（IAEA）に出向されており、その経験を基に、原子力分野における安全のための国際標準の考え方を紹介された。IAEA の安全基準は安全原則（1 件）・安全要件（14 件）・安全指針（90 件程度）の階層構造となっていること、事業所外へのリスクの程度を基準として国際原子力評価尺度（INES）が決められていることなどが述べられた。最後に、IEC と IAEA との規模を比較されたが、予算規模および職員数で IAEA は IEC のほぼ 20 倍で日本人職員も 60 名おられる。



小谷泰久専務理事



野口康成 氏



鈴木教洋 氏

次に、総会の議長として、株式会社 日立製作所 CTO 兼研究開発グループ長 執行役常務の鈴木教洋氏が選出され、鈴木議長のもとで、2015（平成 27）年度光産業技術標準化会事業報告および 2016（平成 28）年度事業計画の審議が行われ、異議なく承認された。



会場風景



高柳誠一 氏



富田 茂 氏

休憩をはさみ、2件の特別講演をいただいた。

まず、元 株式会社 東芝 副社長の高柳誠一氏による、「IEC活動に関する温故知新」の講演があった。高柳氏はIEC会長を務められた後、現在はIEC Past Presidentを務めておられる。その豊富な経験から、国際標準化機関(ISO、IEC、ITU-T)の技術委員会(TC)／サブ委員会(SC)の委員としての心構え、およびTC/SC委員をサポートする役割の方々が持つべき心構えを説かれた。

次に、NTTアドバンステクノロジ株式会社 主幹担当部長の富田 茂氏による、「IEC/TC 86/SC 86Bの現状と課題」の講演があった。富田氏は光ファイバ接続部品・光受動部品を対象とするIEC/TC 86/SC 86Bの国際幹事を務めておられ、SC 86Bの現状を、組織・標準化文書数・委員数の観点から、会合開催費用の問題や一部仕様の各国対立などの課題も含めて紹介された。IECの中でも扱う文書数で最大規模を誇るTC 86の中でもSC 86Bは最も文書数が多く、この分野での日本の多大な貢献の一端を富田氏は担われている。